
不治の病

境康隆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不治の病

【Nコード】

N1028Q

【作者名】

境康隆

【あらすじ】

男は長い眠りについた。己の不治の病がいつか治せる時代がくると信じて

「お目覚めですか？」

男が目を覚ますとそう問いかけられた。女性の声だ。寝かされて
いるらしき男の顔をその人物が覗き込んでいた。

「……」

男は答えられない。上手く声が出せない。

「構いませんよ、そのままです」

声をかけた女性が優しくそう告げる。白衣を着ていた。どうやら
看護師のようだ。ならばここは病院だろう。

「……」

病院で目が覚めた男は目だけ動かして辺りを窺う。

やはり病室のようだ。男の体に大量のチューブが繋がれていた。

男はそのチューブが気になるようだ。一番近いチューブを無意識に
触ろうと手を伸ばした。

しかしその腕はいくらも上がらない。細かく震えるだけで全くそ
の場から離れない。

男は苛立ったようにそれでも腕を伸ばそうとした。どうやらその
チューブを払いのけたいようだ。

「長い間眠ってらっしゃいましたからね。上手く体が動かないのは
仕方がないですよ」

看護師は男を安心させようとしてか、何処までも優しく微笑んだ。

「あ……」

男は長い葛藤の末、やっと口を開くことができた。だが言葉とし
て形をなしていない。うめきが漏れただけの声だった。

「ご自分のお名前が分かりますか？」

「う……」

男は看護師の質問に答えられない。声が出ないのか。それとも名
前が思い出せないのか。それは誰にも分からない。

「ここは病院です。分かりますか？」

「ぐ……」

「あなたは不治の病にかかっていました」

「ああ……」

男が目を見開いた。その言葉に恐怖したのだろう。

男はもう一度手を挙げた。今度は先程より高く手が上がる。男は苛立つようにチューブを掴もうとした。

「ダメですよ。これは病気を治す為のお薬ですからね」

看護師が男の手を優しく遮る。看護師はそのまま男の手を握った。

「治す……」

男がやつと単語らしい言葉を呟いた。じつと己の手を握る看護師の手を見る。

「そうですよ。あなたのご病気を治すんですよ」

「治すだって……」

「何か？」

「だって私は、不治の……」

「ええ。治療不能のご病気でしたんですよ？」

看護師はまだ手を離さない。

「ああ、そうだ…… 現代医学では治せない。諦めて欲しいって言われて……」

「そうです。あの時代の医学では、どうしても治療できませんでした」

「あの時代？」

「覚えてらっしゃいませんか？」

「覚えて？」

「あなたが眠る前に最後に下した決断です」

「私は、確か……」

「そうです。あなたは現代医学の限界に絶望し、全財産を使って生きたまま冷凍睡眠に挑んだのです」

看護師がやつと男の手を離した。

「冷凍睡眠は成功でした。あなたは長い間眠りにつき、そして治療可能な今目覚めたのです」

「えっ？ 治療可能？ 私の病気が？ でも私にはお金が。冷凍睡眠に全財産を……」

男は気力を取り戻し始めたようだ。だがこれからの心配に言葉の端を濁してしまう。

「大丈夫ですよ。今はどんな不治の病でも、国の負担で治すことが義務づけられていますから」

「本当ですか？」

「ええ。国民の健康はこの時代では、国の最優先事項になっていますから」

「それで」

「それで、厳密に言うとあなたの病気はもう治っています」

「ッ！」

男が驚きに身を起こした。

「落ち着いて下さい。冷凍睡眠から目覚める前に、麻酔による負担を避ける為に治療は同時に行われたのです」

「それじゃ……」

「ええ、もうあなたの不治の病は完治しました」

「やった…… やったんだ……」

男が歓喜に涙を流した。

「ありがとうございます。で、いつ退院できますか？」

「退院ですか？」

「ええ、このチューブはいつとれますか？ 病室ばかりだった私は、このチューブが苦手で」

「ダメですよ。それはあなたの病気を治す為の薬のチューブですから」

「えっ？ でも病気はもう治ってるんでよね……」

そう言った男の体から不意に力が抜けた。

「ええ。あなたが冷凍睡眠に入る前のご病気は治りました。今は新

しい不治の病の治療中です」

「はあ……」

男が寝床に体を預け直す。何処かその動きは力ない。

「この時代、誰もがどんな不治の病でも治療されます。その結果誰も死なくなつたのです」

「……」

「誰も死なない社会。いえ、死ねない社会。働けない高齢者ばかりが増えていく社会」

「……」

男が目を見開いた。チューブが一際脈打ち、男の動きが急に止まる。

「それはまるで病気を患つた病人のような社会でした。それも不治の病です。その病気を治療する為、一定の年齢の方には。そうあな

」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1028q/>

不治の病

2011年1月18日21時43分発行